

一般社団法人

日本テレマン協会

2015年度 社会的活動報告書



文化が創造する  
新しい社会の  
ありかたを追求

Telemann Institute Japan



# 日本テレマン協会の新しいフラッグ

## ——「ローカリズム」

今の日本人、とりわけ若者は無駄を嫌うようです。自室にはコンピュータ以外何も置かない若人も少なくありません。「文化」に対してもその態度は同様に「クラシックの演奏会？それに行くことに、どんなメリットがあるのですか？」——そんな質問をする人もいます。もし「無駄」のカテゴリーに「文化」が急接近しているのであれば、文化活動は徐々に行き場を失うことでしょう。将来的には演奏を楽しむのは人工知能だけになるのかもしれませんが。

もっとも深刻な点は「じっくり考えること」も「無駄」のカテゴリーに入る場合があるということです。すぐに答えが出てこない、あるいは考え続けても答えが出てこないかもしれない問題。そんなテーマに対峙して時間を費やすことを「時間の浪費」ととらえるならば、果たして人間に進歩はあるのでしょうか。文

化活動はそもそも考える人間、自分を進歩させたい人間にとって大変有効なツールです。クラシックのコンサートしかり、能しかり、文楽しかり、あるいはビジネス目的でない語学の習得などもしかり。そういった活動に参加する人口が減っている。

この問題を解決するため様々な試みがなされてきました。料金を下げる。学校へのアウトリーチを実施する。演目を親しみやすいものにする。キャラクターをつくる…など。その結果、多くの人が文化活動に興味を持つようになったのか？少なくともクラシックのコンサートに関して「否」です。「処方箋」が間違っているのです。

ではもっとも効果的な処方箋とはなにか？日本テレマン協会は二つのことを決めました。一つはステージにおいて本道を貫き続けるということ。もう

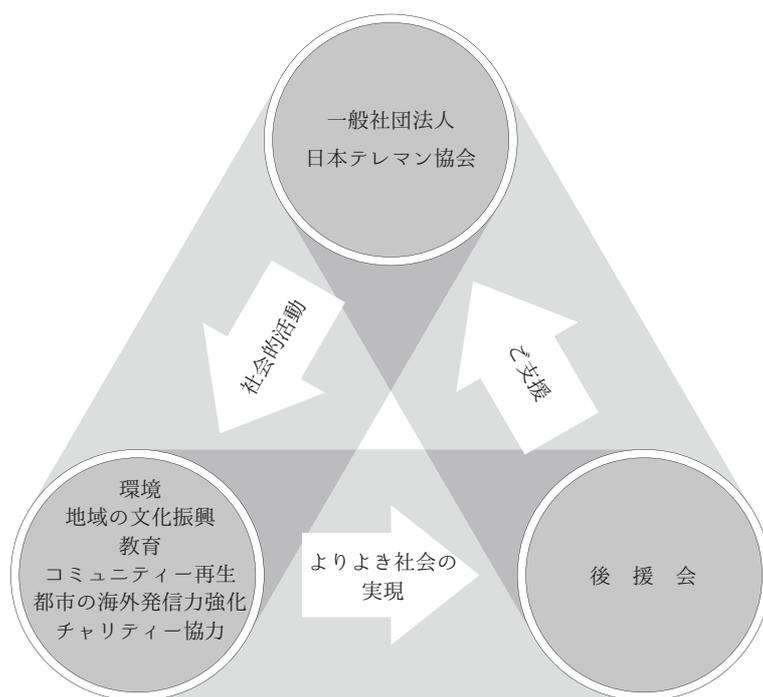
一つは考えるという機会を若人に与える活動をする事。

考えることを好む若人はいずれ独自の人生哲学を育み、創造力を高め、そこから「周辺」に対する愛着を育む。その愛着がさらにはシビックプライドを生む——本道を貫く演奏会がその傍にあり、彼らの創造力を高度に磨いてゆく。

どれほど合理化が進もうとも、関西には説明のつかない愛着とシビックプライドが根をはっている…それがテレマンの目指すローカリズム（地域主義）です。

新たなコンセプトから新たな活動も展開した2015年度。皆様の御支援が単なる支援ではなく、より良き社会をつくる投資となっていると感じていただければ幸いです。

一般社団法人日本テレマン協会  
日本テレマン協会後援会



一般社団法人

# 日本テレマン協会

2015 年度 社会的活動報告書

## 文化が創造する新しい社会の ありかたを追求

### 日本テレマン協会について

日本テレマン協会について 04

年表 07

2015 年度における協会の活動を  
支えてくださった皆様 08

### 特集

シンポジウム——18歳の選挙権で

「機嫌よう暮らす」を考える 10

主催：関西領事団・日本テレマン協会

### インタビュー

若人との集いから見える現代日本の特徴について 11

関西領事団 アンジェラ・トロイアノスさん

# CONTENTS

## 1 創立50周年企画「大大阪 ターフェル・ムジーク」とその後

### 1-1

ベッドタウンのサロン化  
「住む」から「暮らす」へ 12

### 1-2

特別普及プログラム「四季」  
全曲公演の成果 16

### 1-3

講談とのコラボレーション「音楽絵巻」 17

## 2 若人の「考える」を フォローする

### 2-1

関西学院大学：社会連携プロジェクト科目 18

### 2-2

大阪音楽大学との協働 18

### 2-3

学校公演 19

### 2-4

アマチュア団体などの指導・育成 19

### 2-5

相愛大学マネジメント学科との協働 19

## 3 大阪のシビックプライド 醸成と海外発信

### 3-1

J.S. バッハ「ブランデンブルク協奏曲」  
全曲演奏会の連続公演化 20

### 3-2

ミラノ万博記念公演シリーズ 21

### 3-3

フェット・ドウ・ラ・ミュージック啓蒙コンサート 21

### 3-4

タイ国王陛下生誕88周年記念祝賀会 21

## 4 その他

### 4-1

レイクパピルスの使用結果 22

### 4-2

ボルネオの森保全プロジェクト 22

### 4-3

チャリティー協力 22

# 日本テレマン協会について

延原武春によって創設されたバロックからベートーヴェンまでを専門とする室内楽団。「テレマン室内オーケストラ」と「テレマン室内合唱団」を有し、また「日本テレマン協会後援会」がサポートをしている。

設立は1963年。当時大阪音楽大学の学生だった延原武春が「バロック音楽の普及・啓蒙」と「楽しさ」をテーマに、新しい演奏会の可能性を追求すべく「テレマン・アンサンブル」を結成した

のがその始まり。「定期演奏会」のほか、聴衆とともにサロンを形成しようとした「マンスリーコンサート」、宗教音楽を教会の聖堂で奏でる「教会音楽シリーズ」などを軸とし、関西を中心に全国的な活動を展開。1977年「文化庁芸術祭優

秀賞」、1986年「第17回サントリー音楽賞」を受賞。

2008年にはベートーヴェンの交響曲全曲をクラシカル楽器にて公演。これが引き金となって延原は2009年ドイツ連邦共和国より功労勲章を受章。以後

延原は日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団などを指揮し、好評を博す。

2011年、代表が延原から中野順哉に交代。現在は「音楽団体が社会に対して出来る

こと」をテーマに、「琵琶湖の水質浄化」「街と音のコラボレーション」「ボルネオの森林保全プロジェクト」「関西発クラシック『国産』宣言」をはじめ様々なオペニオンをかかげた新しい団体として生まれ変わりつつある。



## 関西発クラシック「国産」宣言

新代表・中野順哉によって生まれたオペニオンの第一弾。きっかけは東日本大震災以後外国人の演奏家が来日しにくいという事態に陥った折、多くの新聞が「興業にどのような損害があるか」と報道していたことだった。中野としてはこの時期にこそ、クラシックの分野における「国産」とは一体何であったのかを問い直したいと考えた。「国産」とは「演奏家が日本人」という意味ではなく、この国で何が生まれたのかという「場」の力のこと。例えば大阪で毎月開催してきた

マンスリーコンサート。「コンクールではなく国内のサロンから演奏家を生みたい」という延原武春の思いのもと、ここでは演奏家と聴衆がともに独特の価値観を生み出してきたといえる。その価値観をベースに高田泰治、浅井咲乃といった演奏家も輩出された。協会としてはこれを一つの生産的なモデルケースとし、また精神の支柱の一つとすべくロゴを作成し、協会の新たな旗印とすることにした。





## テレマンとは

ゲオルク・フィリップ・テレマン。1681年3月14日～1767年6月25日。後期バロック音楽のドイツ人作曲家。バッハ、ヘンデルも足元に及ばないほど高い評価を受けていた作曲家で、大変な多作家としても有名。延原武春はテレマンの自叙伝にあった「人が喜ぶために作曲している」という言葉に感銘を受け、彼の名をかかげたグループを結成した。代表的な作品は「食卓の音楽」という曲集。

大変面倒見の良い人物でもあったようで、バッハの次男の名付け親でもあり、

また自身がハンブルクで臨終の時を迎える際、後継者にその「次男」を指名したという逸話も残っている。またヘンデルとの親交は深く、ロンドンから様々な珍しい植物をヘンデルは彼宛に送っていたとか。またテレマンが「食卓の音楽」を出版する際、予約者の最初の方にヘンデルの名が入っていることも有名な話。

バッハ、ヘンデルにとっては「偉大な先輩」であったテレマン。彼の作品だけではなく、その心意気を伝えたい…それが私たちの使命でもある。

## 延原武春 TAKEHARU NOBUHARA (日本テレマン協会 音楽監督)

1963年 日本テレマン協会の前身である“テレマン・アンサンブル”を結成。

以来50年余の歳月を経てその業績は目覚ましく、日本におけるバロック音楽の探究と普及という専門的領域のみならず、その広い視野と行動力によって、特に西日本における音楽文化の広範な普及に多大な貢献をもたらした後、近年では長年の古楽探究を礎とした音楽解釈とその熟練された手腕を持つ巨匠指揮者としての今後が多いに嘱望されている。

指揮者としてライブツィヒ放送交響楽団をはじめとする海外のオーケストラとの共演の機会が幾度もあったにも関わらず、その主眼はあくまでも自らが創設した日本テレマン協会での活動に注がれた。

1970年代後半からその評価は関西を超えて全国的なものとなり、テレマン室内オーケストラ・テレマン室内合唱団との演奏は文化庁芸術祭・優秀賞やサントリー音楽賞を受賞するまでに高く評価されることとなり、さらにはライブツィヒで開催されたバッハ生誕300周年記念国際音楽祭に日本の団体としては唯一招かれ、J.P. ランパル、H.J. シェレンベルガー、A. ビルスマなどの名手との共演の他、J.E. ガーディナー、F. ブリュッヘン、C. ホグウッド、G. ボッセ等とも親しく交流することとなる。

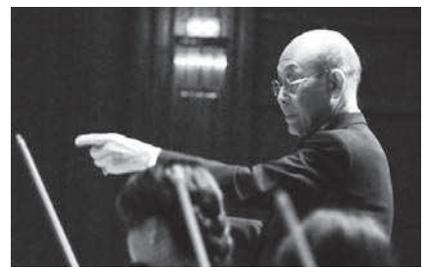
延原武春の音楽的業績は、教会の聖堂を舞台としてテレマン作曲の『マタイ受難曲』やヘンデルの『メサイア』9種類

の異版を取り上げるなど枚挙に暇がないが、殊にユニークなのが1982年にベートーヴェンの第九交響曲を初演当時の編成と作曲者指定のテンポに従って演奏すること…これはその当時としては極めて斬新なアプローチであったため、ガーディナーやホグウッドといった古楽演奏家達が延原の第九の録音を所望したというエピソードは大変興味深い。

延原のベートーヴェンに対するアプローチはこれに留まるものではなく、2008年にはクラシカル楽器によるベートーヴェン：交響曲全曲・合唱幻想曲・ミサ・ソレムニス・ツィクルスを挙行。これが契機となり延原は『ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小授章』を授賞することとなった。

2009年には大阪フィルハーモニー交響楽団に客演(民音主催)し、J. ブラームス：交響曲第1番を指揮。2010年～12年には同楽団は延原とともにベートーヴェン：交響曲全曲シリーズを主催。「『大阪フィルの次代を拓く』と言って過言ではない名演」と『田園』がかくも力強く、生命力にみちた音で鳴り響いたことはなかったのではないかと(評：故小石忠男/日本経済新聞9月30日夕刊)等と絶賛を博するなど一際大きな話題となった。

また、同時期に日本フィルハーモニー交響楽団横浜定期演奏会にも客演。その際のブラームス：交響曲第1番はEXTONレーベルからCD化された。



2011年には延原の元に多くのプレイヤーが集う”一日だけのオーケストラ”として Orchestra Japan 2011 が結成され、マーラー：交響曲 第4番を演奏。その演奏はライヴノーツ・レーベルからリリースされ『レコード芸術』誌で特選盤に選ばれた。これらの成果が契機となってこのオーケストラは再結集され、2012年には京都・大阪・神戸でドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」など、2015年には大阪でスメタナ：「我が祖国」全曲といったロマン派のレパートリーを取り上げ、好評を博した。また、東日本大震災追悼・復興祈念コンサートとして、いづみホールでブラームス：ドイツ・レクイエムを、2014年、2015年と2年連続で演奏。2014年の公演はライヴノーツ・レーベルよりCD化され、話題となった。

かつて、アーノンクールやガーディナーといった古楽のスペシャリストたちがヨーロッパのモダン・オーケストラから指揮者として招かれるようになったのと似通ったムーブメントが今、延原武春のもとにも起ころうとしている。

作家。日本テレマン協会代表。小説を阿部牧郎、浄瑠璃台本を七世鶴澤寛治の各氏に師事。関西学院大学文学部フランス文学科卒業。在学中より日本テレマン協会の活動にライターとして参加。1993年には同協会の季刊誌「ゲオルク」を立ち上げる。

2000年、琵琶湖浄化の紙をチラシ・プログラムに使用することで、日本テレマン協会の活動を通し年間50,000トン以上の湖水を浄化するという企画を立ち上げる。同年より旭堂南左衛門とともに創作講談を手掛ける。同時に各地の歴史をテーマに創作した講談と音楽のコラボレーション＝「音楽絵巻」をプロデュース。上演した講談はすでに100作以上にのぼる。

さらにはアジア各国の隠れたストーリーを講談にして、日本に紹介するという活動も開始し、すでにトルコ、ベトナム、オマーンの物語を発表。

2011年に日本テレマン協会二代目代表に。「関西発クラシック『国産』宣言」や、協会創立50周年記念事業「大分ターフェルムジーク」などをプロデュースし、現在は成熟社会における文化の使命として、「ベッドタウンでのコミュニティ再構築」に力を注ぎとしている。また文化団体による「大阪の国際発信」をめざし、各総領事館や母校関西学院大学との連携に着手。2014年に日本テレマン協会と関西学院大学の包括協定の締結を実現。同年、日本テレマン協会独自の大阪文化論「私の見た大阪文化」を

執筆・編集し、各国総領事館を中心に配布。続く2015年には大阪市中央公会堂を舞台にバッハ「ブラン

デンブルク協奏曲」全曲公演を毎年することを宣言。ブランデンブルク州首相よりメッセージを得、行政から独立した民間団体による独自の都市発信に成功。2016年3月には高校生、大学生、大学院生、留学生と複数の総領事によるシンポジウムを企画。社会に一石を投じる大きな話題となった。

代表作に「小説・延原武春」(東方出版)がある。



## テレマン室内オーケストラ Telemann Chamber Orchestra



1963年に指揮者・延原武春が結成。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。「サントリー音楽賞」を受賞した日本初のプロオーケストラでもある(同賞は現在も当協会と東京交響楽団、京都市交響楽団以外のプロオーケストラは受賞していない)。そのほかの主な

受賞歴は、「大阪文化祭賞」、「音楽クリティッククラブ賞」、「大阪府民劇場賞」、「文化庁芸術祭優秀賞」(関西初)等。

1990年バロック・ヴァイオリンのサイモン・スタンディジをミュージック・アドバイザーとし、バロック楽器(18世紀当時の楽器およびそのレプリカ)による演奏を始める。2003年にはドイツのバッハ・アルヒーフから招聘を受け「バッハ・フェスティバル」に出演し、C.P.E. バッハ「チェンバロ協奏曲 Wq1」を世界初演した。

2006年からはクラシカル楽器(古典派の時代に使用された楽器およびそのレプリカ)による演奏を始め、2007

年には同楽器によるF.J. ハイドンのオラトリオ「四季」を好演。「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞した。

「マンスリーコンサート」(会場は大阪倶楽部4階ホール)を舞台に「聴衆とともにつくる価値」の創造に力を入れ、そこをベースに様々な奏者を輩出している。チェンバロおよびフォルテピアノの高田泰治、ヴァイオリンの浅井咲乃などはその代表的な存在として注目を集めている。

2012年にはドイツよりバロック・ヴァイオリン奏者ウツラ・ブンディース氏を首席客演コンサートマスターとして迎えた。

## テレマン室内合唱団 Telemann Chamber Chorus

1969年に延原武春が創設した合唱団。主にテレマン室内オーケストラとともに演奏活動を続けており、1985年にはドイツで開催された「J.S. バッハ生誕300年記念国祭音楽祭」に招待され、現地新聞等で当時大きな評判となる。カトリック夙川教会に於ける「教会音楽シリーズ」は公演回数180回を数え、合唱団にとっての最も大きな活躍の場と

なっている。これまでに、G.F. ヘンデル作曲「メサイア」の9種の違ったバージョンを年一回のサイクルで連続的に公演したシリーズや、「ヘンデル本邦初演オラトリオシリーズ」、或いは、幻のテレマン作受難曲集の公演「テレマンプロジェクト」、「延原武春の受難曲シリーズ」などを開催してきた。



# 年 表

- 1960
- [63] ● 延原武春氏を中心にテレマンアンサンブル発足（現：テレマン室内オーケストラ）
  - [65] ● 定期演奏会スタート。
  - [66] ● 大阪文化祭賞（以後 72 と 82）
  - [68] ● マンスリーコンサートスタート（会場は津村別院）
  - [69] ● テレマン室内合唱団が発足し、室内楽における総合団体「大阪テレマン協会」となる。
- 1970
- [70] ● 音楽クリティッククラブ賞（以後 75 と 76）
  - [75] ● 大阪府民劇場賞（以後 85）
  - [77] ● 文化庁芸術祭優秀賞（関西より初受賞）
  - ビクターレコード制作「テレマン協会シリーズ」発売開始。
- 1980
- [81] ● G.Ph. テレマン生誕 300 年を記念し、コンサート（文化庁芸術祭主催）、出版、レコードを発売。
  - [82] ● 定期演奏会にて L.v. ベートーヴェン交響曲第 9 番「合唱付」を合唱団・オーケストラ合わせて 100 人で演奏（100 人の第九）
  - テレマン室内管弦楽団がドイツへ演奏旅行。テレマンの生地マクテブルクでの公演実現。
  - [84] ● マンスリーコンサートの会場が大阪倶楽部になる。
  - [85] ● テレマン室内合唱団・同管弦楽団総勢 70 名、東ドイツへ演奏旅行。（“バッハ生誕 300 年記念国際音楽祭”に出演）
  - サントリー音楽賞（関西より初受賞）
  - [87] ● 「ベルリン市制 750 年記念音楽祭」に参加。また、ロンドンデビュー公演を実現。
  - 「ソウル国際音楽祭」参加。日本の室内楽団では初の韓国公演。
  - [89] ● テレマン室内合唱団が創立 20 周年を迎え、教会音楽シリーズも 100 回記念演奏会を行う。
  - フランス革命 200 年を記念し、パリ、ポルドー、ヴァルドアーズ各都市で公演を行う。
- 1990
- [91] ● バロック楽器の団体「コレギウム・ムジクム・テレマン」が発足。サイモン・スタンディジや中野振一郎主導のもとで、様々な試みに着手。海外公演やCD収録の他、数多くの本邦初演・世界初演を行う。
  - G.F. ヘンデル「メサイア」の異なった 9 種の版を連続的に公演。（～ 01）※
  - [93] ● 季刊誌「ゲオルク」創刊（～ 03）
  - [95] ● G.F. ヘンデルの権威・故渡部恵一郎氏の監修のもと、ヘンデル作曲の本邦初演のオラトリオをジェスチャー付きで連続公演。（～ 01）
  - [99] ● 中野振一郎 & コレギウム・ムジクム・テレマンによるドイツ演奏旅行。
- 2000
- [00] ● ヘンデルのオラトリオ公演にて、上方講談師・旭堂南左衛門が共演。
  - 琵琶湖水質浄化の紙の使用開始。演奏会を通じた環境改善活動に着手。
  - 小説「延原武春」（作：中野順哉）が東方出版より出版。
  - (CD) デンオン制作「J.S. バッハ：チェンバロ協奏曲集」リリース。
  - [02] ● 御当地の歴史を取材した創作講談とのコラボレーション「音楽絵巻」がスタート。
  - 高田泰治がチェンバロ、フォルテピアノ、ピアノを弾き分ける協奏曲の夕べに出演し、ソリストデビュー。
  - (CD) マイスター・ミュージック制作「ラ・フォルリア」リリース。
  - (CD) 「バッハ以降のチェンバロ協奏曲集」リリース。
  - [03] ● 中野振一郎率いるコレギウム・ムジクム・テレマンがドイツへ演奏旅行。「バッハ・フェスティバル in ライプツィヒ 2003」に出演し、C.P.E. バッハ作曲「チェンバロ協奏曲」の復元後、世界初演を行う。
  - (CD) ライヴノーツ制作「オーボエ協奏曲・バロック名曲集」リリース。
  - [04] (CD) 「星に願いを」リリース。
  - [07] ● ハイドン作曲オラトリオ「四季」の公演が大阪文化祭グランプリ受賞。
  - [08] ● 協会創立 45 周年を記念して、延原指揮によるベートーヴェン交響曲全曲及び合唱幻想曲、荘厳ミサ曲連続公演を開催。ベートーヴェンの指示したテンポとクラシカル楽器の使用によるこの公演は高く評価されCDに。
  - (CD) 「テレマン作品集②7つのトリオ・ソナタ」リリース。
  - [09] (CD) 「ベートーヴェン・チクルス」リリース。（～ 11）
  - 延原、ドイツ連邦共和国より功労勲章を受章。
  - 延原が大阪フィルハーモニー交響楽団を指揮するシリーズ（ベートーヴェン交響曲全曲）が始まる。
  - 「テレマン室内管弦楽団」改め「テレマン室内オーケストラ」に改称。
  - [10] ● 延原、日本フィルハーモニー交響楽団の横浜定期演奏会を指揮。
- 2010
- [11] ● 協会代表が延原から中野順哉に。
  - コレギウム・ムジクム・テレマン解散。
  - 「指揮者・延原で」というコンセプトをもとに、関西在住のフリーランスの奏者を集めオーケストラを結成（Orchestra Japan 2011）し、マーラー交響曲第 4 番を演奏。
  - (CD) オクタヴィアレコード制作「ブラームス：交響曲第 1 番」リリース。
  - (CD) ライヴノーツ制作「高田泰治チェンバロ・アルバム Vol.1」リリース。
  - [12] ● ウッラ・ブンディース、首席客演コンサートマスターに就任。
  - 延原、Orchestra Japan 2011 を率いてドヴォルザーク交響曲「新世界より」を好演。
  - (CD) 「マーラー『亡き児を偲ぶ歌』『交響曲第 4 番』」リリース。（「レコード芸術」特薦盤）
  - (CD) 「浅井咲乃：ヴィヴァルディ『ムガール大帝』」リリース。
  - [13] ● 創立 50 周年事業「大大阪ターフェルムジーク」を中野のプロデュースのもとで開催。
  - (CD) 「U. ブンディース 高田泰治 J.S. バッハ 6 つのソナタ」リリース。
  - [14] ● Orchestra Japan 2011 を再結成し、3 月 11 日にレクイエムを奏で続ける追悼公演を開始。
  - [15] ● ブランデンブルク州知事に対し、J.S. バッハ「ブランデンブルク協奏曲」全曲を大阪にて連続公演することを公約しシリーズ開始。
  - (CD) ライヴノーツ制作「高田泰治 モーツァルト・アルバム」、[U. ブンディース 高田泰治 モーツァルト ヴァイオリン・ソナタ」リリース
  - [16] ● 中野、シンボジウム「18 歳の選挙権で『機嫌よう暮らす』を考える」を関西領事団とともに開催。
  - (CD) ライヴノーツ制作「高田泰治 うつろい」リリース

## ※G.F. ヘンデル「メサイア」9 種の異版連続公演

1991 年 9 月 2 日	1742 年ダブリン版	1996 年 2 月 18 日	Vol.3	1750 年I版	1999 年 6 月 27 日	Vol.6	1750 年II版
1994 年 2 月 27 日	Vol.1 1743 年ロンドン初演版	1997 年 6 月 18 日	Vol.4	1752 年I版	2000 年 7 月 2 日	Vol.7	1752 年II版
1995 年 6 月 25 日	Vol.2 1749 年版	1998 年 4 月 26 日	Vol.5	1751 年版	2001 年 6 月 10 日	Vol.8	1753 年版

## ◎ 2015年度における協会の活動を支えてくださった皆様

### ・日本テレマン協会後援会

会 長	野村 明雄	(大阪ガス株式会社 相談役)
副 会 長	本城 正哉	(住友生命保険相互株式会社 顧問)
	脇阪 聡史	(朝日放送株式会社 代表取締役社長)
理 事	福田 里香	(パナソニック株式会社 常務役員)
	原 眞一	(コーナン建設株式会社 代表取締役社長)
	北山 隆	(大阪音楽大学名誉教授)
	宮島 登美子	(TMS代表)
	小野 敏夫	(NPO法人クラシック音楽興隆会 理事長)
	砂野 耕一	(川崎重工株式会社 社友)
	室町 鐘緒	(株式会社三菱東京UFJ銀行 名誉顧問)
	山口 昌紀	(近畿日本鉄道株式会社 取締役会長)
	時政 幸雄	(関西電力株式会社 執行役員)
	井上 礼之	(ダイキン工業株式会社 取締役会長兼CEO)
	森川 敏雄	(株式会社三井住友銀行 特別顧問)
	佐野 吉彦	(安井建築設計事務所 代表取締役社長)
	羅 辰雄	(株式会社蓬萊 オーナー)
	入谷 泰生	(日本クルーズ客船株式会社 代表取締役社長)
	鳥井 信吾	(サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副社長)
	吉田 有宏	(千寿製薬株式会社 代表取締役社長)
	杉浦 正	(共和コーポレーション株式会社 代表取締役)
	川崎 益彦	(桜宮ゴルフクラブ株式会社 取締役社長)
顧 問	井戸 敏三	(兵庫県知事)
	荒井 正吾	(奈良県知事)
	久元 喜造	(神戸市長)
	アレン・グリーンバーグ	(アメリカ総領事)
	インゴ・カールステン	(ドイツ総領事)
	シャルランリ・ブローソー	(フランス総領事)
	ローデリック・ウォルス	(オランダ総領事)
	リャボフ・オレグ	(ロシア総領事)
	マルコ・ロンバルディ	(イタリア総領事)
	クリストフ・ドゥ・バツソンピエール	(ベルギー大使館公使参事官)
	チャン・ドゥック・ビン	(ベトナム総領事)
	ドゥシット・メーナパン	(タイ総領事)
	河 泰充	(駐大阪大韓民国総領事)
	多川 俊映	(興福寺貫首)
	鶴澤 寛治	(人間国宝 三味線奏者)
	ロニー・アレキサンダー	(神戸大学大学院教授)
	池長 潤	(カトリック大阪教区大司教)
	千 宗守	(武者小路千家 家元)
	高口 恭行	(一心寺長老)
	小野 善康	(経済学者)
	阿部 牧郎	(作家)
監 事	稲畑 勝雄	(稲畑産業 取締役 相談役)
	陳 英智	(三洋実業)

## 法人会員

---

(株) I H I 関西支社	サントリーホールディングス (株)	阪急電鉄 (株)
あいおいニッセイ同和損害保険 (株)	J F E エンジニアリング (株) 西日本支社	(株) 三井住友銀行
愛知時計電機 (株) 大阪支社	J F E スチール (株)	三菱電機 (株) 関西支社
(株) アークエース	情報技術開発 (株)	(株) 三菱東京UFJ銀行
朝日放送 (株)	新コスモス電機 (株)	矢崎エナジーシステム (株) 大阪支店
稲畑産業 (株)	住友生命保険 (相)	(株) 安井建築設計事務所
今津建設 (株)	千寿製菓 (株)	UCC 上島珈琲 (株)
江崎グリコ (株)	損害保険ジャパン日本興亜 (株)	(医) 友仁会浅井整形外科
(株) エンポウ	ダイキン工業 (株)	讀売テレビ放送 (株)
大阪ガス (株)	(株) 大広	(株) ロイヤルホテル
(株) 大林組	(株) 大丸松坂屋百貨店	ロックペイント (株)
(株) カネカ	(株) 竹中工務店	(財) 職業技能振興会
(学) からたち幼稚園	(株) 丹陽商会	三宝商会
関西テレビ放送 (株)	(株) データコントロール	南海電気鉄道 (株)
関西電力 (株)	東京海上日動火災保険 (株)	非破壊検査 (株)
(株) 共和コーポレーション	中井エンジニアリング (株)	大和ハウス工業 (株)
近鉄グループホールディングス (株)	(医) 中野クリニック	(株) S B J 銀行 大阪支店
(株) きんでん	日本クルーズ客船 (株)	(株) 公益社
(有) 神戸楽譜	日本生命保険 (相)	読売新聞大阪本社
コーナン建設 (株)	日本郵船 (株)	西日本旅客鉄道 (株)
桜宮ゴルフクラブ (株)	(株) 博報堂関西支社	日鉄住金 P&E (株)
(株) 産業経済新聞社	(株) 白松	(株) りそな銀行
三幸メリヤス (株)	パナソニック (株)	

## 東京法人会員

---

東京ガス (株)  
大阪ガス (株) 東京支社  
西部ガス (株) 東京事務所  
東邦ガス (株)  
フルライン (株)

## 休会

---

(株) りそな銀行

## 個人会員

---

塩田 邦博	羅 辰雄	浜辺 正昭	和久 公子	永重 史郎	酒井 俊幸
阿部 牧郎	南 茂夫	大西 淑子	里見 悦子	野村 明雄	土井 英一
川岸 弘賢	小林 誠	越田 重雄	直田 春夫	長濱 一郎	三宅 成典
小島 百合子	高田 満國	仲窪 菜穂子	大西 國忠	信楽 義彦	寫田 潤作
小川 寛	高橋 香	三好 具子	石村 孝夫	有賀 熙雄	岡本 好平
高 仁宝	松本 好史	吉田 好道	重森 哲二	黒田 千之	田中 正恒
北浦 告三	角南 忠昭	米沢 康	堀 則明	宮本 敏子	福居 誠二
浅沼 健一	延 秀恵	杉浦 正	松倉 孝夫	竹田 忠士	
廣川 信一	延 敏恵	中川 淳一	松倉 英子	津田 直樹	
橋本 依子	平田 キヨ	岩田 由孝	中西 守	廣瀬 隆平	

## 東京個人会員

---

小野 敏夫  
中島 久仁子  
小野 久恵  
田中 佐代  
梶原 健司

# 特集 シンポジウム—— 18歳の選挙権で「機嫌よう暮らす」を考える

主催：関西領事団・日本テレマン協会 2016年3月19日・20日開催

中野順哉の提唱する新しいオピニオン——テレマンの「ローカリズム」。その基本概念は若人に「考える機会」を提供することが、将来的には創造力豊かな人材を生み、文化活動に興味を持つ人口を増やし、その結果都市に対する愛情とプライドを醸成するというもの。そこでダイレクトに考える場をアレンジすべく、シンポジウムを開催することにした。この日本テレマン協会始まって以来初となる「音の無い企画」に対し、快く共同主催を受け入れたのは関西領事団であった。

丁度法改正によって選挙権が18歳以上の若年層にも与えられるというタイミングである。このことをテーマに「関西をどのような社会にしたいのか」を日本人高校生に問いかけ、また留学生や大学院生には「選挙権を得る年齢層が下がることの意味」などについて語ってもらった。聞き手はオランダ、アメリカ、インド、タイの総領事。学生発表の後はフリートイムを設け、活発なQ&Aを展開した。多くの報道陣が駆けつけ、将来をにな



う若人の意見に耳を傾けた。成果としては参加した若人たちが口々に「そう考えるのか…」とお互いの意見から触発を受けていたこと。この活動を継続することで、「考える若人層」を徐々に形成し、更には参加する高校の教育レベルを高くキープすることで「若きエリート」の意識を鼓舞できればとも。またこういった

交流が可能である関西の都市力と文化力。それをシンポジウムという形で具体化し続けることで、関西各都市の都市格上昇とともに、そこに住む市民のシビックプライドの質的上昇も目指したいと考えている。

関西領事団とは2016年度も継続することが決まっている。



## プログラム

### ◎交流会

日程 3月19日  
 時間 14:00 準備レクチャー  
 15:30 親睦会(17時まで)  
 会場 オランダ総領事公邸

### ◎シンポジウム(150分プログラム)

日程 3月20日  
 会場 大阪市中央公会堂特別室  
 時間 18:30開演  
 使用言語 英語

今回の総領事と若人のシンポジウムという企画をどのように受け止めておられますか？

トロイアノス：150年近い歴史をもちながら関西領事団はこれまで主体となるイベントを開催しておりません。そういった意味では画期的であったと思います。また神戸・大阪・阪神間の市民レベルでの参加がベースになったという点でも、我々だけでなく参加された総領事にとって稀有な機会であったと言えます。企画の方向性としても「ナショナルカラー」を重視しなければいけない各国総領事館の主催では出来ないニュートラ

ルさがあり、関西領事団の特性をうまくアレンジしてくださった企画だと思います。このようなチャンスをいただいたことに心より感謝しています。

「若人を育てる」という点で、今関西が抱えている問題点はこういったところにあると感じておられますか？

トロイアノス：日本人の心の中にはいまだに「高学歴」が良い人生を送る条件であるという「信仰」があるのではないのでしょうか。またそういう心理的環境がグローバル化の進む現在においても「日本スタンダード」を尊重する傾向を生むよ

うな気がします。関西や大阪を論じる時も常に東京との比較の上で考える場合が多いようですが、グローバルな視点の中では一つの独立した市場。もっとそのことを意識した環境づくりをするべきではないでしょうか。

例えば留学生が日本に来にくい、同時に日本人も留学しにくい。その足枷となっているのは「年度」という日本スタンダードのシステム。あらゆる次元に設けられた日本スタンダードが、折角高度な内容を学んでもなかなか相互に活かせていない——ここが最大の問題だと感じています。

## インタビュー

### 若人との集いから見える現代日本の特徴について

関西領事団 アンジェラ・トロイアノスさん



関西領事団として今後行っていきたい活動は？

トロイアノス：あくまでも個人的な意見ですが…私の専門は経営学です。その点でとても興味深いのは大阪で生き続けている伝統的な商業センスです。それをベースに若人と話し合う…といったことを、今回のようなシンポジウムを通してやっていきたいですね。

そこから今問題になっている多く課題に対し、大阪独特のソリューションが生まれて来れば最高です。若い人たちのエネルギーは無尽蔵ですし、大阪という土

地には創造力を豊かにするポテンシャルがあります。考察することがコミュニティのためのものであり、決してビジネス単体のためのものではないということ、ともに考えられるようになれば。

日本テレマン協会という音楽の専門団体がこのようなシンポジウムなど社会活動に着手することをどのように感じていますか？

トロイアノス：大変印象的なことでした。このシンポジウムも、ほとんどの文化サイドの人であれば「開催できない」と考

えるのではないのでしょうか。それを自然にやっつけるところに、この協会の大きな実行力を感じます。正直に言えば日本テレマン協会に出会うまで、関西領事団でどのようなイベントをするべきか…案はあってもその実現方法が全く思い浮かばなかったのです。またこれは当然のことですが、具体的なイマジネーションを持っている組織はビジネスでも成功する。グローバル社会においては特にそうでしょう。そういった意味でも日本テレマン協会さんには、今後も頑張ってほしいと思っています。

# 創立50周年企画

## 「大大阪ターフェル・ムジーク」とその後

### 1-1 ベッドタウンのサロン化 「住む」から「暮らす」へ

創立50周年記念事業として展開した「大大阪ターフェル・ムジーク」の結果、我々が得たのは、老後の生活を楽しむ上でコンテンツが少ないということであった。特に男性の場合はベッドタウンに引きこもったままというケースが多い。これを改善するのも文化の団体の活動であ

ると認識。そこで株式会社ケイオスの示唆のもと「住む」と「暮らす」を以下のように再定義した。

「暮らす」町＝その地を活用・利用し  
楽しんでいる場所  
「住む」町＝寝起きする場所

特に男性がベッドタウンで引きこもるのは、そこが「暮らす町」では無かったからではないか。だとすればベッドタウンで「暮らす」、そんなライフスタイルの改変のキーとして、身近なサロンコンサートを開催してはどうだろうか…こういった考えのもと、これまで展開していたサロンを見直すとともに、同様のコンセプトをもった場所の増加に力を入れている。

### 【A】うえまちコンサート

2008年より継続しているサロンコンサート。NPO法人まち・すまいづくりは「住んで楽しいまちづくり」をテーマにコーポラティブ住宅の推進と、市民参加のセミナーなどの開催を手掛けている団体。活動の本拠は上町台地周辺地域で、地域密着型の情報伝達媒体となる『うえまち』も発行している。

そして更なる魅力あるまちづくりを目指して、まち・すまいづくりは2008年よりタウンコンサートを始めた。「うえまちコンサート」と題されたこのシ

リーズは、会場を上町台地にある様々な「集いの場」においているのが特徴。ホテルのチャペル、神社、寺、博物館…。第3回公演より協会としても正式に「協力」という形で参加することになった。

どちらかと言えばポピュラーな路線を好む傾向のあるサロンコンサートだが、中にはチェンバロによるかなりマニアックなソロコンサートや、海外からのアーティストが参加する公演もあり、緩急取り混ぜたコンテンツとなっている。

2015年度の公演は以下の通り。

2015年 4月25日

第29回うえまちコンサート  
会場：大阪歴史博物館4階 講堂  
曲目：J. S. バッハ/G線上のアリア  
V. モンティ/チャールダッシュ ほか  
出演：指揮/延原武春 ヴァイオリン/浅井咲乃  
テレマン室内オーケストラ  
特別展解説/大阪歴史博物館 学芸員

2015年 8月 2日

第30回うえまちコンサート  
Expo Concerts in OSAKA Vol. 3  
会場：大阪市立美術館玄閣ホール  
曲目：A. ヴィヴァルディ/「四季」全曲 ほか  
出演：ヴァイオリン/浅井咲乃  
テレマン室内オーケストラ

### 【B】平野区の第九

2000年より一般市民の希望者を公募し合唱団をつくり、「五カ年計画」でベートーヴェン作曲の交響曲第9番を指導。毎年達成したところまでを発表し、5年後には最後まで歌えるようにするという、直接的に「地域の文化意識の向上」

を実現させようという企画。市民の喜びは大きく、計画達成後、2006年度より毎年平野区の恒例行事として継続されている。特殊なサロンとして定着化している演奏会。

2015年12月16日

15周年 平野区クリスマスコンサート2015  
会場：コミュニティプラザ平野  
曲目：ベートーヴェン/交響曲第9番第4楽章  
クリスマスキャロル ほか  
出演：指揮・オーボエ/延原武春  
独唱/藤田瑞穂・葉谷佳苗  
鹿岡晃紀・中塚昌昭・篠部信宏  
合唱/ひらの混声合唱  
テレマン室内オーケストラ

### 【C】貝塚コスモスシアター公演

2005年から、コスモシアターとともに企画したサロンコンサート。チェンバロ、ヴァイオリン、ヴィオラ、オーボエ…様々な楽器や、カルテット、国によってかわる鍵盤楽器の魅力など、毎回テーマを明確にした講演型公演。年3回で構成されている。一時間の演奏会の

後、お客とともに奏者もお茶とお菓子を楽しむ。

この公演をモデルとし、全国のホールに「サロン」を移植してゆく…というのもこの公演シリーズの大きな特徴だ。すでに宮崎県などに複数回紹介している。

2015年度の公演は以下の通り。

ティータイムコンサートシリーズXV

”ぞもクラ”って??  
会場：貝塚コスモスシアター小ホール  
2015年 7月26日(モーツァルト)  
出演：f p 高田泰治・v n 浅井咲乃・お話 延原武春  
2015年10月25日(ハイドン)  
出演：f p 高田泰治・v n 浅井咲乃・お話 延原武春  
2016年 3月19日(ベートーヴェン)  
出演：f p 高田泰治・v n 浅井咲乃・v c 曾田健  
お話 延原武春

## 【D】池田アゼリア公演

1977年より継続しているサロンコンサート。ある一定の時期に建設された市民会館の大半には、まだ「室内楽の公演」という意識はなく、音楽用には大ホールしかないというケースが多かった。元来池田市民文化会館もこのケースに属していたが、市の文化財団の熱意により、会館のエントランスをステージにして、室内楽の演奏会をはじめることになった。現在は会館内にイベントスペースが整備され、新たなシリーズが定着しつつある。固定ファンをベースに毎回200人規模のサロンが形成され、大阪倶楽部とは違った価値観を形成しつつある。2015年度の内容は以下の通り。

2015年 7月25日  
第41回バロックコンサート  
会場：池田市民文化会館3階イベントスペース  
曲目：J. S. バッハ/コーヒーカンタータ  
W. A. モーツァルト/ピアノ・ソナタ  
第14番 八短調ほか  
出演：指揮/延原武春  
フォルテピアノ/高田泰治ほか  
テレマン室内オーケストラ

## 【E】アバンザ・ランチ タイムコンサート

巨大な書店などでも利用者の多い堂島アバンザ。このオフィスビルのエントランスを舞台に無料コンサートを展開。2009年より日本テレマン協会が本格的にプロデュース参加。

第94回 2015年 4月17日  
曲目：F. J. ハイドン/ディベルティメント ほか  
出演：テレマン木管五重奏

第95回 2015年 6月12日  
(Expo Concerts in OSAKA Vol. 2)  
曲目：G. ロッシーニ/弦楽のためのソナタ第1番ほか  
出演：テレマン・アンサンブル

第97回 2015年10月16日  
(Expo Concerts in OSAKA)  
曲目：「オーソレミオ」「帰れソレントへ」ほか  
出演：テノール/鹿岡晃紀、テレマン・アンサンブル  
ディレクター/延原武春

第99回 2016年 2月19日  
曲目：A. ヴィヴァルディ/「四季」より「春」  
A. マルチェロ/オーボエ協奏曲 二短調ほか  
出演：指揮/オーボエ/延原武春  
ヴァイオリン/浅井咲乃 ヴィオラ/姜隆光  
テレマン・アンサンブル

## 【F】高槻現代劇場公演

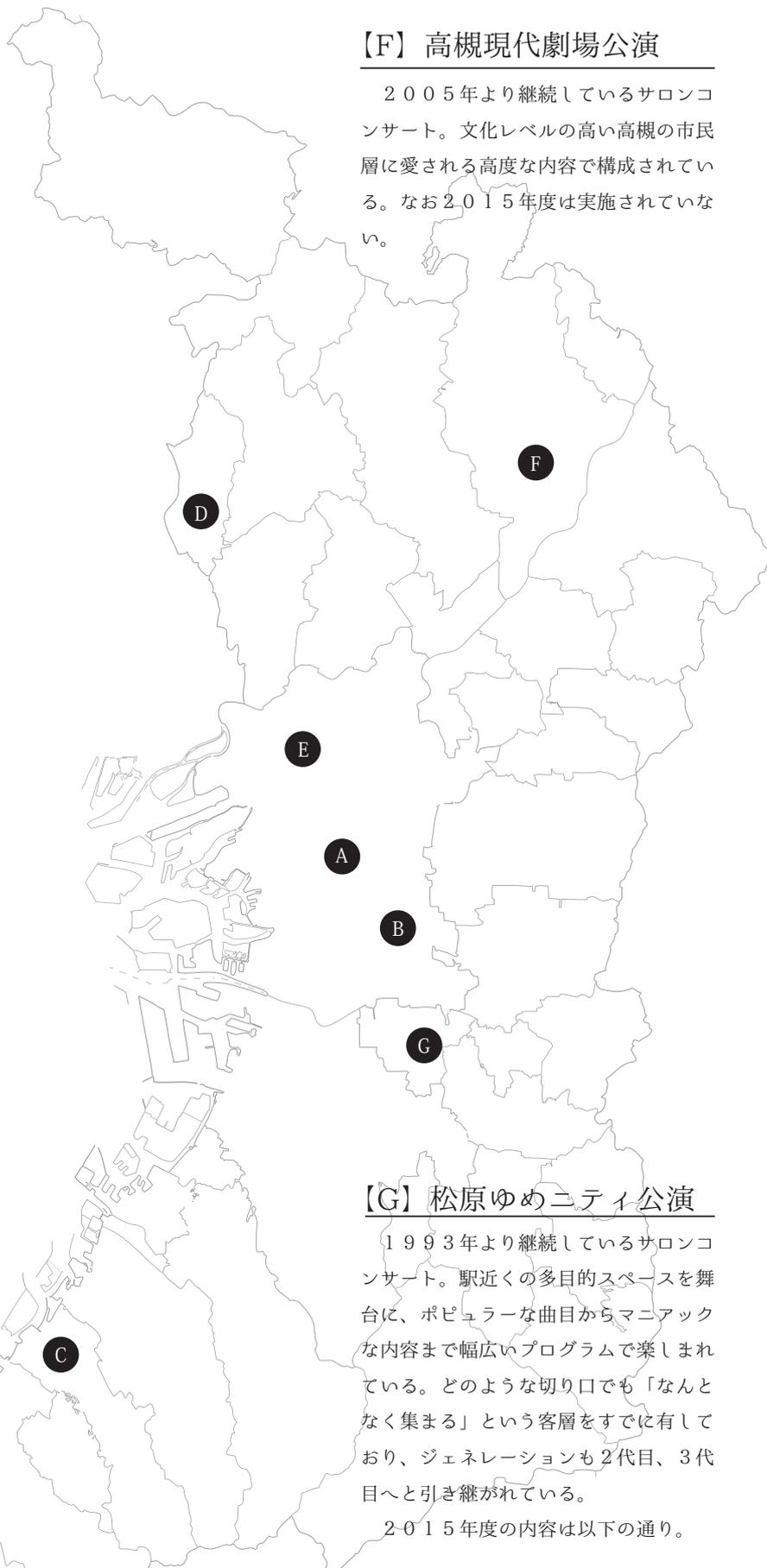
2005年より継続しているサロンコンサート。文化レベルの高い高槻の市民層に愛される高度な内容で構成されている。なお2015年度は実施されていない。

## 【G】松原ゆめニティ公演

1993年より継続しているサロンコンサート。駅近くの多目的スペースを舞台に、ポピュラーな曲目からマニアックな内容まで幅広いプログラムで楽しまれている。どのような切り口でも「なんとなく集まる」という客層をすでに有しており、ジェネレーションも2代目、3代目へと引き継がれている。

2015年度の内容は以下の通り。

2016年 3月26日  
松原ゆめニティ初登場！高田泰治のJ. S. バッハ  
会場：松原ゆめニティプラザ  
曲目：J. S. バッハ/ヴァイオリン・ソナタ ほか  
出演：チェンバロ/高田泰治  
ヴァイオリン/浅井咲乃





## 【H】川西公演

2014年よりスタート。後援会法人会員である三宝商会が主催者となって、これまで日本テレマン協会としては公演経験の無かった川西市で定期的に公演を実施することに。三宝商会は「三宝鉄道」

と銘打ってこれまでにドイツ製の精密な大型列車模型をジオラマとして公開することで、地域に集いの場を提供してきた実績がある。社長の芝池巖氏の「大阪倶楽部で行われているようなサロン文化を

川西市にも」という思いから実現。貴重なサロンコンサートとして協会としても全力投球をしていく。

2015年度の公演は以下の通り。

2015年 5月 5日  
 三宝鉄道コンサート 関西バロック最前線  
 会場：みつなかホール  
 曲目：J. S. バッハ / 2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調 ほか  
 出演：テレマン室内オーケストラ

2015年 8月 29日  
 三宝鉄道コンサート Vol. 4  
 Expo Concerts in OSAKA  
 会場：みつなかホール  
 曲目：A. ヴィヴァルディ / ヴァイオリン協奏曲「ムガール大帝」ほか  
 出演：指揮/延原武春 ヴァイオリン/浅井咲乃  
 テレマン室内オーケストラ

2015年12月11日  
 三宝音楽コンサート Vol. 5  
 会場：みつなかホール  
 曲目：G. F. ヘンデル / 合奏協奏曲  
 A. ヴィヴァルディ / フルーツ協奏曲  
 「海の嵐」ほか  
 出演：指揮/延原武春  
 フルーツ/森本英希ほか  
 テレマン室内オーケストラ

主催/三宝商会 後援/川西市・川西市教育委員会  
**テレマン室内オーケストラ** vol.3  
 関西バロック最前線  
 これだけは知っておきたいバロック音楽  
 ~もともとバロックの歴史の上で、室内、その親子が聴く協奏曲の音楽~  
 ヴァイオリン 浅井咲乃  
 チェンバロ 高田泰治  
 Program  
 2015/5/5 (火・祝) 13:00開演 (12:15開場)  
 全席自由

主催/三宝音楽 後援/川西市・川西市教育委員会・川西市商工会・宝塚中ロケテークラブ  
**ヴァイヴァルディ**  
 フルーツ協奏曲「海の嵐」  
**テレマン室内オーケストラ** vol.5

指揮 延原武春  
 フルーツ 森本英希  
 ヴィオラ・ダモレ 姜 隆光  
 テノール 新井俊稀  
 Program  
 2015/12/11 (金)  
 開演/19:00 (18:30開場) ● 入場料/2,000円 (三宝音楽協賛) 全席自由  
 会場/川西市みつなかホール (阪急・能勢電鉄 川西能勢口駅 東出口 6分)  
 チケットぴあ ☎ 0570-02-9999 【Pコード: 277-355】  
 ◎ 三宝鉄道HPより受付 <http://www.sanpou-tetsudou.jp> (三宝商会でも販売)  
 お問い合わせ/すまいる情報 三宝商会 〒593-8603 川西市東町5番1号 アステリア1階  
<http://www.sanpou-tetsudou.jp> ☎ (072)759-6885

主催/三宝商会  
 後援/日本テレマン協会・イタリア文化会館  
 協賛/川西市・川西市教育委員会・川西市商工会  
 文化芸術交流推進事業  
**ヴァイヴァルディ**  
 ヴァイオリン協奏曲「ムガール大帝」  
 ヴィオラ・ダモレ協奏曲 ほか  
 指揮 延原武春 ヴァイオリン 浅井咲乃  
 ヴィオラ・ダモレ 姜 隆光  
 ヴィオラ 渡辺有希  
 2015/8/29 (土) 14:00開演 (13:15開場)  
 全席自由

## [I] 伊丹酒蔵公演

2000年より継続しているサロンコンサート。伊丹市文化振興財団では「みやのまえ文化の郷」の活性化やPRに積極的に取り組んでいる。日本テレマン協会も以前は「いたみホール」を舞台に、サロンコンサートの開催協力をしてきたが、2007年よりこの町の活性化企画に参加することに。会場は旧岡田家の酒

蔵。毎回満員御礼で秋の名物となりつつある。またもともと「酒蔵で聞く」ということに興味を持っていた客層より「テレマンの音をもっと良い環境で聞きたい」という意見が多く出て、2013年5月18日アイフォニックホールでも公演。

2015年度の内容は以下の通り。

## [J] 明石・中崎公会堂

1911年に建設された中崎公会堂は明石市にある都市景観形成重要建築物。夏目漱石も講演をしたことがあるという、今でも多くの市民が集う場所。ここをステージにサロンコンサートを展開することになった。2015年度の内容は以下の通りである。

2015年10月24日  
テレマンコンサート in 中崎公会堂  
会場：明石・中崎公会堂  
曲目：G. P. h. テレマン／四重奏曲 ほか  
出演：オーボエ／延原武春 リコーダー／北山隆  
ヴァイオリン／浅井咲乃 チェロ／曾田健  
チェンバロ／高田泰治

## [K] 学園前ホール

典型的なベッドタウン。駅に隣接した300席程度の小型ホールで、身近に楽しめるサロンコンサートを展開。今年度はほぼ満席となり、まずは目的を達成することができたと言える。2016年度も継続することとなった。2015年度の内容は以下の通りである。

2015年 6月21日  
室内楽の見た西と東  
会場：学園前ホール奈良市西部会館市民ホール  
曲目：J. バッハ／カノン  
A. マルチェロ／「ヴェニスへの愛」ほか  
出演：オーボエ／延原武春  
テレマン・アンサンブル

## [L] 伊賀市文化会館さまざまホール

伊賀市のセンター的なホールで年間4回シリーズのバロックの演奏会をスタート。初年度は実験的に入場料をワンコインとした。通常のベッドタウンとは違い農村人口も多い。特色あるこの場所で、

生活の中に気軽に聞けるバロック音楽のコンサートを定着させたいというコンセプト。2015年度の内容は以下の通りである。

2015年 4月19日  
クラシックのいろは  
室内楽の魅力でつづる「音の四季」Vol. 1  
会場：伊賀市文化会館さまざまホール  
曲目：J. S. バッハ：ブランデンブルク協奏曲 第5番ほか  
出演：指揮とお話／延原武春  
ヴァイオリン／U. ブンディース  
チェンバロ／高田泰治  
テレマン室内オーケストラ

2015年 9月13日  
クラシックのいろは  
室内楽の魅力でつづる「音の四季」Vol. 3  
会場：伊賀市文化会館さまざまホール  
曲目：延原武春によるオーボエコーナー  
V. モンティ／チャールダッシュ  
出演：指揮とお話／オーボエ／延原武春  
ヴァイオリン／浅井咲乃  
テレマン室内オーケストラ

2015年 6月14日  
クラシックのいろは  
室内楽の魅力でつづる「音の四季」Vol. 2  
会場：伊賀市文化会館さまざまホール  
曲目：G. P. h. テレマン／オーボエ協奏曲木短曲  
A. ヴィヴァルディ／「四季」全曲  
出演：指揮とお話／延原武春  
ヴァイオリン／浅井咲乃  
テレマン室内オーケストラ

2015年11月28日  
クラシックのいろは  
室内楽の魅力でつづる「音の四季」Vol. 4  
会場：伊賀市文化会館さまざまホール  
曲目：W. A. モーツァルト／ピアノ協奏曲  
F. J. ハイドン／ピアノ・ソナタ ほか  
出演：指揮とお話／延原武春  
フォルテピアノ／高田泰治  
テレマン室内オーケストラ  
(クラシカル楽器)

2015年10月17日  
テレマンのバロック音楽の宴 Vol. 23  
会場：旧岡田家住宅・酒蔵  
曲目：G. ロッシーニ／弦楽のためのソナタ  
第1番 ト長調  
F. クライスラー／美しきロスマリンほか  
出演：オーボエ・ディレクター／延原武春  
ヴァイオリン／浅井咲乃  
テレマン室内オーケストラ

クラシックのいろは  
室内楽の魅力でつづる「音の四季」Vol. 1  
U. ブンディース&高田泰治による「J.S. バッハの神髄」  
4月19日(日) 開演14:30 開演15:00  
会場：伊賀市文化会館 さまざまホール  
6月14日(日) 開演14:30 開演15:00  
9月13日(日) 開演14:30 開演15:00  
11月28日(土) 開演14:30 開演15:00

室内楽の見た西と東  
Ausgehend von Naoya 2015  
6.21  
バロック音楽のスペシャリストが独自のアレンジでお届けする  
延原武春&テレマン・アンサンブル

チャルダッシュ  
ほろろと流れる情熱の舞臺に酔う秋の午後——伊丹の酒蔵にて  
2015年10月17日(土) 開演14:00(開場13:30)  
あきのま文化の郷 伊丹市立伊丹町総合 旧岡田家住宅・酒蔵

テレマンコンサート  
in 中崎公会堂  
2015  
10/24(土)  
14時開演 (13時30分開場)  
会場：中崎公会堂  
全席自由  
一般 2,500円  
おきいクラブ 2,300円  
ペア券 4,500円  
(2枚)

## 1-2

### 特別普及プログラム 「四季」全曲公演の成果

1-1とコンセプトを共有しているのだが、更に室内楽団の使命という点にフォーカスした特別プログラムがヴィヴァルディ「四季」全曲公演の実施である。この作品は「第九」に匹敵するほど国内での知名度は高い。しかし「第九」が年末に実演を聞く機会が多いのに対し、この全曲演奏を聞くという機会は意外に少ない。理由を分析すれば以下のようになる。

- ① 室内楽作品であるゆえに、一般のシンフォニーオーケストラは得意としない。
- ② 室内楽団でもソリストを内部から出す団体がほとんど無いために、外部のソリストとのセッションという形になってしまい、本来の面白みに欠ける。
- ③ 海外から演奏家を呼ぶのは経費の面で現実的でない。

国内でこの曲が有名になったのは昨日今日のことでない。つまり先人たちの積み重ねによってこの国に定着した文化であると言える。それをきちっと演奏できる団体は、国内ではテレマン室内オーケストラをおいて他にはない…のであれば、室内楽団として積極的に各地で演奏をすることは使命ともいえる。

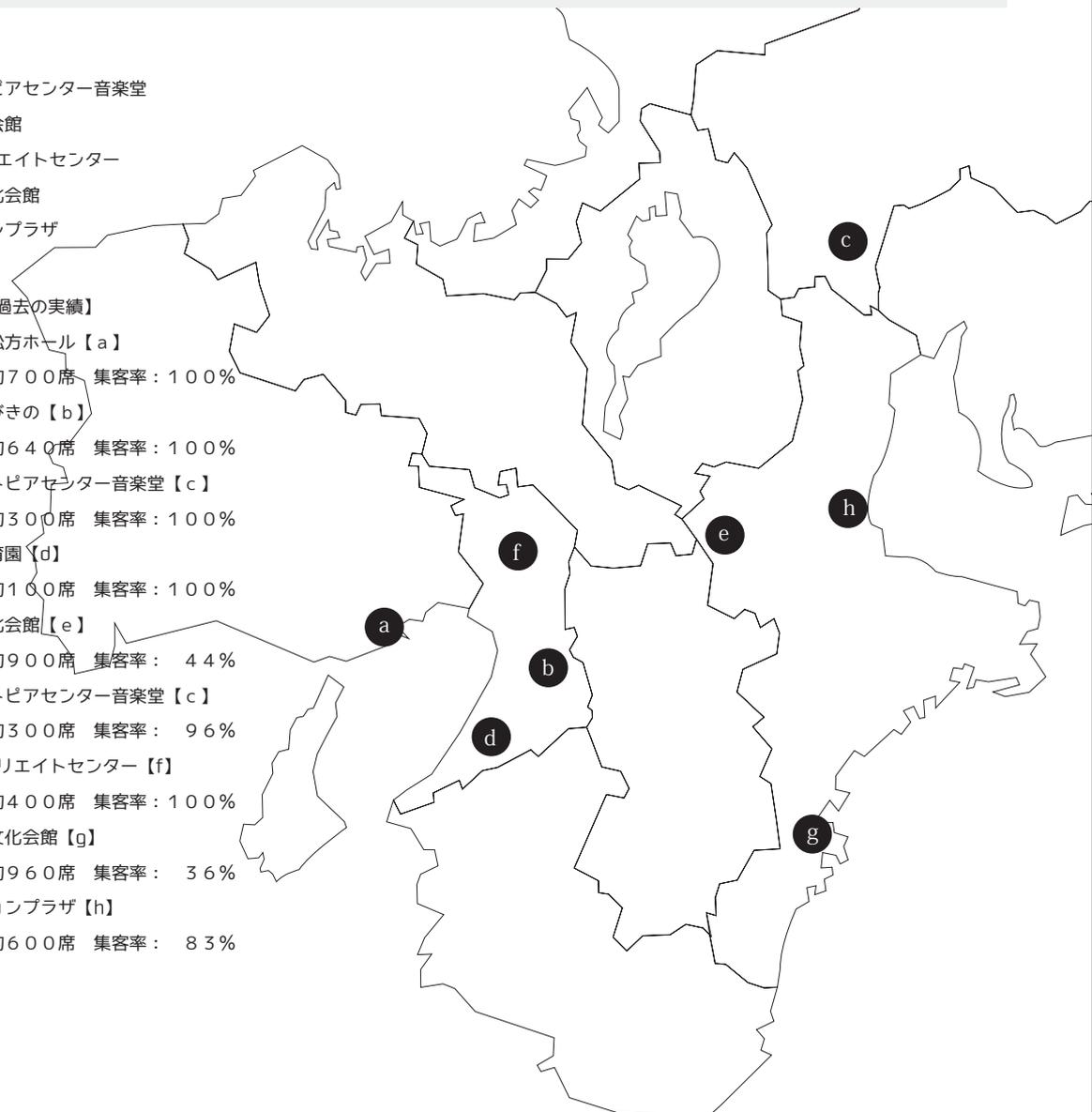
またこの曲であればちょっと聞いてみようか…という層も厚く、ベッドタウンでの「暮らす」を創造するのに適した曲目であると言える。ここ数年、このコンセプトのもとで、テレマンに馴染みのない場所を中心に演奏活動を実施。その結果、テレマンの名前ではなく、ヴィヴァルディ「四季」のタイトルでどれくらいの数の人間が興味を示すのかという数字も見えてきた。今後はこのデータをもとに、社会活動の一環としてこの活動の範囲を広めていきたいと考えている。

#### 【2015年度の演奏会場】

- 2015年6月20日 大垣サイトピアセンター音楽堂
- 2015年6月14日 伊賀市文化会館
- 2016年1月24日 茨木市 クリエイトセンター
- 2016年2月28日 尾鷲市民文化会館
- 2016年3月13日 津リージョンプラザ

#### 【ヴィヴァルディ/四季 全曲公演 過去の実績】

- 2010年 4月24日 神戸新聞松方ホール【a】  
客席数：約700席 集客率：100%
- 2010年 9月25日 LICはびきの【b】  
客席数：約640席 集客率：100%
- 2014年 2月 8日 大垣サイトピアセンター音楽堂【c】  
客席数：約300席 集客率：100%
- 2014年 8月31日 御池台保育園【d】  
客席数：約100席 集客率：100%
- 2015年 6月14日 伊賀市文化会館【e】  
客席数：約900席 集客率：44%
- 2015年 6月20日 大垣サイトピアセンター音楽堂【c】  
客席数：約300席 集客率：96%
- 2016年 1月24日 茨木市 クリエイトセンター【f】  
客席数：約400席 集客率：100%
- 2016年 2月28日 尾鷲市民文化会館【g】  
客席数：約960席 集客率：36%
- 2016年 3月13日 津リージョンプラザ【h】  
客席数：約600席 集客率：83%



# 1-3 講談とのコラボレーション「音楽絵巻」

地域の郷土史家などに直接取材をし、それを創作台本にして音楽をおりませる「音楽絵巻」という企画。主に講談などの日本の古典芸能と室内楽が共演。郷土史を見直し、地域住民とともに新たな発見をめざす完全なオーダーメイドのコンサートである。

この企画がスタートしたのは2002年だが、その後各地における認知度も高くなり、現在のべ95公演を実施。講談の作品数にして100作を突破している。原則的に台本に対する著作権はフ

リーとし、二次利用、三次利用がしやすい状況を提供し続けている点も評価されている。ネット配信などを通し、町の魅力を広く伝えることが出来るツールとして幅広く使用してもらいたいと考えている。

2015年度は大坂夏の陣より400年にあたる年でもあり、それをテーマにしたものが多かった。また羽曳野市はこの企画の制作過程を市民大学の講義テーマにおくというコラボレーションを実施した。

## 【2015年度の公演実績】

- 8月30日 LIC はびきの：大阪：羽曳野戦記
- 10月20日 関西学院同窓会大阪支部：大阪：大坂夏の陣
- 10月21日 兵庫県立付属高等学校：兵庫：音楽絵巻「真相アマデウス」
- 1月25日 山本能楽堂：大阪：真田幸村三変化①
- 3月17日 山本能楽堂：大阪：真田幸村三変化②



## 講談・朗読コラボレーション公演及び地域活性化講談公演のこれまでの履歴【参考】

### 【2002年】

- 3月 安土文芸セミナリオ：滋賀：音楽絵巻「信長の聴いた音楽」
  - 5月 神戸新聞松方ホール：兵庫：「メサイア」
  - 6月 大阪電気通信大学特別講座：大阪：講談「ヘンデル一代記」
  - 6月 高槻現代劇場：大阪：音楽絵巻「ヘンデル一代記」
  - 8月 石川県立音楽堂：石川：音楽絵巻「利家の聴いた音楽」
  - 11月 尼崎市近松記念祭：兵庫：講談「国姓爺合戦」
  - 11月 丹波国際音楽祭企画：兵庫：講談「走れメロス」「魔王」
- ### 【2003年】
- 2月 柏原高等学校：兵庫：講談「おさん茂兵衛」
  - 3月 鳳鳴高等学校：兵庫：講談「おさん茂兵衛」
  - 6月 貝塚市民文化会館コスモシアター：大阪：「モーツァルトVSベートーヴェン」
  - 7月 大阪電気通信大学特別講座：大阪：講談「ヴィヴァルディ一代記」
  - 7月 新宮市民会館：和歌山：音楽絵巻「西村伊作」
  - 11月 秋篠音楽堂：奈良：クララ・シューマンによる「ショパンとリスト」

### 【2004年】

- 4月 神戸市立真合高等学校：兵庫：講談付き学校公演
- 5月 大阪電気通信大学特別講座：大阪：講談「バッハ一代記」
- 7月 大阪倶楽部：大阪：大阪新企画・音楽絵巻「近代文学散歩」
- 9月 神戸新聞松方ホール：兵庫：音楽絵巻「アマデウス」
- 10月 熊野市民会館：三重：音楽絵巻「源平盛衰記」熊野古道編
- 10月 湖東町（現東近江市）：滋賀：音楽絵巻「湖東商人銘々伝」
- 11月 姫路東中学校：兵庫：講談付き学校公演
- 11月 東京国立博物館：東京：音楽絵巻「森鷗外」
- 12月 播磨町教育委員会：兵庫：音楽絵巻「漂泊」
- 12月 住吉区：大阪：音楽絵巻「熊野街道」

### 【2005年】

- 1月 日本郵船「飛鳥」オセアニアクルーズ：音楽絵巻「漂泊」
- 2月 近江八幡市民会館：滋賀：音楽絵巻「心に華開く時」
- 2月 大和高田さざんかホール：奈良：音楽絵巻「義経の七つ石」
- 4月 伊賀上野市民会館：三重：音楽絵巻「荒木又右衛門」
- 5月 大江山町：京都：世界鬼学会講演・講談「大江山異聞」
- 9月 高知県グリーンホール：高知：音楽絵巻「山内一豊」
- 11月 東京国立博物館：東京：葛飾北斎展企画・「真曾我兄弟」

### 【2006年】

- 1月 山東町ルッテプラザ：滋賀：音楽絵巻「石田三成」
- 3月 小野市うるおい交流館エクラ：兵庫：音楽絵巻「長祿の変」
- 7月 金光八尾高等学校：大阪：講談付き学校公演
- 7月 三鷹市風のホール：東京：音楽絵巻「新・功名が辻」
- 7月 掛川市シーネ：静岡：音楽絵巻「山内一豊」掛川編

- 7月 日本郵船「飛鳥II」カムチャツカクルーズ：音楽絵巻「ある日の大黒屋光太夫」
  - 9月 大阪市役所：大阪：音楽絵巻「モーツァルト」
  - 10月 羽曳野市LIC はびきの：大阪：音楽絵巻「源氏三代記異聞」
  - 10月 東郷町：愛知：音楽絵巻「とうこう六景」
  - 10月 名張市青少年センター：三重：音楽絵巻「藤堂高吉公一代記」
- ### 【2007年】
- 2月 NECマイタウコンコンサート：福岡：九州交響楽団共演
  - 4月 横須賀芸術劇場：神奈川：音楽絵巻「三浦一族記異聞」
  - 9月 びわこビジターズビューロー：神奈川：音楽絵巻「信長が愛した音楽」
  - 9月 大東市サーティホール：大阪：音楽絵巻「ぶらり大東今むかし」
  - 9月 伊丹ホール：兵庫：宝塚西高等学校音楽鑑賞会
  - 11月 三田市総合文化センター：兵庫：三田西陵高等学校音楽鑑賞会
  - 11月 天理南中学校：奈良：文化祭イベント
- ### 【2008年】
- 3月 小野市うるおい交流館エクラ：兵庫：音楽絵巻「加古川筋一揆」
  - 5月 安土文芸セミナリオ：滋賀：音楽絵巻「信長が愛した音楽」
  - 6月 神河町グリーンホール：兵庫：神河音楽絵巻「銀の馬車道今むかし」
  - 10月 伊賀上野城天守閣：三重：音楽絵巻「藤堂高虎」
  - 10月 彦根観光協会：滋賀：彦根音楽絵巻「開国物語 井伊直弼外伝」
  - 10月 大阪商工会議所：大阪：音楽絵巻「フジハラル物語」
  - 10月 守山市民ホール：滋賀：守山音楽絵巻「人ゆえに、愛ゆえに…」
- ### 【2009年】
- 1月 松江市総合文化センタープラバホール：島根：音楽絵巻「松江城今昔秘話」
  - 2月 びわこビジターズビューロー：東京：ひこにゃんのてくてく「歴史街道」
  - 2月 日本郵船「飛鳥II」南太平洋グランドクルーズ：音楽絵巻「大江山奇談。鬼の道に、横道なし」
  - 3月 丹波の森公苑ホール：兵庫：創作講談と音楽「恋路の丹波刀旅」
  - 6月 有馬、念仏寺：兵庫：講談と室内楽公演「小さな島国のオルガン」
  - 7月 大津市民会館：滋賀：音楽絵巻「淡海街道物語」
  - 10月 近江八幡市立資料館：滋賀：音楽絵巻「一柳満喜子伝」
  - 10月 伊賀上野：三重：講談ウォーク「筒井定次」「藤堂高虎」

### 【2010年】

- 6月 大和高田さざんかホール：奈良：音楽絵巻「真・役小角伝」
  - 7月 兵庫県立芸術文化センター主催：兵庫：「キャンディード」ブレ
  - 9月 伊賀市民局エントランス：三重：音楽絵巻「伊賀の乱」
  - 10月 伊賀市民局エントランス：三重：音楽絵巻「藤堂高虎」
  - 11月 伊賀市民局エントランス：三重：音楽絵巻「藤堂高吉」
  - 11月 リソネ銀行大阪本店地下講堂：大阪：音楽絵巻「恋模様刀の旅路」
  - 12月 多気町民文化会館：三重：音楽絵巻「二人の客人(まろうど)」
- ### 【2011年】
- 5月 小野市うるおい交流館エクラ：兵庫：ふるさと小野音楽絵巻III「一柳満喜子伝」
  - 5月 茨木市民総合センター：大阪：音楽絵巻「茨木にこの男あり 片桐東市正旦元に候」
  - 7月 ハーモニーホールふくいき：福井：音楽絵巻「お江・・・越前北ノ庄哀歌」
  - 9月 日本クルーズ客船「ばしふいっく・ひいなす」：音楽絵巻「源平合戦外伝」
  - 10月 灘区民ホール：兵庫：なだ音楽絵巻「真・平清盛伝・濃編」
  - 10月 伊賀上野城天守閣：三重：音楽絵巻「藤堂高虎伝」
  - 10月 五條市民会館：奈良：歴史音楽絵巻「救世主・松倉重政」
  - 12月 三木市民文化会館：兵庫：三木高等学校音楽観賞会

### 【2012年】

- 9月 泰聖寺：大阪：アジア講談～トルコ編～
- 10月 高槻現代劇場：大阪：高山右近と大友宗麟の謎に迫る～バロック音楽絵巻～

### 【2013年】

- 1月 豊中市立ローズ文化ホール：大阪：音楽絵巻「豊中愛伝説」
- 6月 中央電気倶楽部：大阪：音楽絵巻「断片」～七世鶴澤寛治の思い出～
- 6月 泰聖寺：大阪：アジア講談～ヴェトナム編～
- 9月 京都府立府民ホールアルティ：京都：音楽絵巻「山本覚馬」
- 11月 旧西本組本社ビル：和歌山：音楽絵巻「チェレビー」

### 【2014年】

- 3月 ソフィア・堺：大阪：音楽絵巻「鈴木貞太郎新伝」
- 7月 日本クルーズ客船「千島列島とロシア探求の旅」：音楽絵巻「高田屋嘉兵衛真伝」
- 7月 瀧川第二中学校：兵庫：音楽絵巻「真相アマデウス」
- 9月 ロシア総領事館：大阪：音楽絵巻「大黒屋光太夫」
- 10月 山本能楽堂：大阪：音楽絵巻「竹鶴物語」
- 10月 泰聖寺：大阪：アジア講談～オマーン編～

## 2 若人の「考える」をフォローする

### 2-1 関西学院大学：社会連携プロジェクト科目

2014年に包括協定を結んだ関西学院大学との具体的な活動。社会連携プロジェクト科目とは社会の具体的な問題を取り上げ、そのソリューションを学生とともに考えるという目的をもった授業であった。そこで当協会としては中野順哉を講師とし、中野は「大阪の文化発信を考え直す」をテーマとした。大阪は過剰な演出による「笑い」や、一地域に限定された言葉や慣習が喧伝され、あまり「高度な精神性」を発信しているとは言えない状況にあると中野。「食についても『お好み焼き』『タコヤキ』といったものが、まるで大阪人の主食であるかのような喧伝のされ方をしている。また大阪人は余りにも自虐的にそれを受け入れ過ぎてい

る。更に深刻なのはインパウンド効果に幻惑され、大阪の精神性を見出すという意識すら、大阪人の中から消えつつある。経済偏重の弊害がいずれ都市から多くのものを奪ってゆく…その過程を看過することは出来ない」と主張。学生とともに考えるよい機会と考えた。2014年に中野が作成した冊子「私の見た大阪文化」がその素地となっている。

期間は後期。参加学生は6名。ゼミナール形式であった。講義前半（10月まで）に大阪の文化の実際を理解してもらうべく、その前線で活動しておられる方々をゲストに招いて講義をしていただいた。以下がそのゲスト講師であった。

- 10月9日 島村雅晴（懐石料理「雲鶴」料理長）
- 10月16日 川添光代・古川多夢（株式会社久宝金属）
- 10月23日 七世鶴澤寛治（文楽三味線奏者・人間国宝）
- 10月30日 延原武春（指揮者・日本テレマン協会音楽監督）

その後フィールドワークとして、大阪の北船場エリアを株式会社ケイオスの澤田充氏とともに歩く。その経験をもとに各学生が具体的なソリューションを提示。それらを議論するという形で講義が完了。途中産経新聞記者などが取材にも入った。

議論の中から一つのプロジェクトを生み出し、2016年度のなかでそれを当協会が実施するという事でこの授業は完結する。その内容報告は次年度に報告させていただきたい。

### 2-2 大阪音楽大学との協働

2015年は大阪音楽大学創立100周年にあっていた。その記念事業として同大学では、卒業生である高田泰治を起用し、楽器博物館所有の楽器などを使用して、4つの楽器とその楽器のために書かれた作品を一夜で演奏するという公演を企画した。

一人の演奏家が4つの楽器を一度にひき分けるといふ公演は世界的にも珍しく、またその違いを導き出せる演奏家も稀有と言って良い。それを見事に完遂させることで、演奏会のクオリティーとしては勿論、同大学の研究成果・学生への

啓蒙と言った点でも申し分のない内容となったと言える。企画者からも高い評価を得、さらに話が発展し、協会・大学両者の合意のもと、当日の演奏の録音をCD化。「うつろい」と題されたライブ録音のディスクをリリースすることで音楽業界、ジャーナリストをはじめ幅広い層から高い評価を得ることに成功した。

産学が多角化する中で、芸術の専門領域をともに追求する二つの団体が協働して得られる成果の「模範」を示すことが出来たと言っても過言ではない。



## 2-3 学校公演

2015年度も文化庁の学校公演を主体に、多くの学生向け演奏会を開催した。協会の人材としては新たに高曲伸和を得たことが大きい。行く先々の学校において、高曲は生徒に愛され、また時に強く生徒を叱責するも、学校長よりその点を高く評価していただくなど、教育的演奏

会の場において「快進撃」を展開していると言える。

またいづみホールを舞台にした学校公演においても高曲の役割は大変に大きかった。伝チマローザ作曲「宮廷楽士長」という指揮者が主人公となる一幕もののコメディがあるが、その主役を高

曲が巧みに演じ、また全体の演出も手掛けた。結果、「オーケストラのありかた」を生徒が別の角度から学ぶことが出来、続くベートーヴェンの交響曲を、集中力をもって聞くことが出来る、そんな環境を生み出すことに成功した。

## 2-4 アマチュア団体などの指導・育成

延原武春、今井良、およびテレマン室内オーケストラのメンバーによる大阪市ユースオーケストラ、フィルハーモニア福岡、コードリベット・コールなどの指導・育成は2015年度も継続された。具体的内容は以下の通りである。



### 【2015年度の定期演奏会】

2015年 8月 2日

フィルハーモニア福岡第29回定期演奏会

会場：南市民センターホール

曲目：F. メンデルスゾーン／交響曲第4番ほか

出演：指揮／延原武春

2016年 3月11日

東日本大震災追悼・復興祈念コンサート

会場：いづみホール

曲目：J. ブラームス／ドイツ・レクイエム ほか

出演：指揮／延原武春 独唱／木村能里子・篠部信宏

コードリベット・コール Orchestra Japan 2011

2016年 2月14日

フィルハーモニア福岡第30回定期演奏会

会場：アクロス福岡シンフォニーホール

曲目：J. ブラームス／交響曲第4番

W.A. モーツァルト／協奏交響曲

出演：指揮／延原武春

ヴァイオリン／浅井咲乃 ヴィオラ／姜隆光

2016年 3月 1日

大阪市ユースオーケストラ第44回定期演奏会

会場：大淀コミュニティセンター

曲目：W.A. モーツァルト／アイネ・クライネ・ナハトムジーク ほか

出演：指揮／延原武春 大阪市ユースオーケストラ

テレマン室内オーケストラのメンバー

## 2-5 相愛大学マネジメント学科との協働

2015年度も相愛大学マネジメント学科准教授の松谷葉子氏の協力のもと、マネジメント学科の 학생さんとともにCD制作を実施することが出来た。収録した内容は高田泰治によるJ.S. バッハ「ゴルトベルク変奏曲」。リリースは2016年度を予定している。



# 3 大阪のシビックプライド醸成と海外発信

大阪がヨーロッパの観光マップから消えるケースがある。インバウンド効果で宿泊施設も潤っている現在、そんな状況を信じる人は少ないかもしれない。しかし、日本に来て大阪の精神性を知って帰りたい…そんな観光客の確保にこの都市は成功しているとは言い難い。買い物目

当ての旅客の波が去った後、それでも大阪に行きたいという人口をキープできるかどうかは大いに疑問である。そこで文化団体の使命としてこの問題を解決すべく、内にはシビックプライドの醸成、外には積極的な「精神性の高さ」の発信を目指す活動に力を入れることにした。

## 3-1 J. S. バッハ「ブランデンブルク協奏曲」全曲演奏会の連続公演化

J. S. バッハのブランデンブルク協奏曲全曲を毎年演奏する団体は国内には無い。ならば我々が毎年演奏すれば、大阪は毎年この曲に出会える都市となる。そしてその公演が「国際都市としての大阪のブランド力向上」につながれば…そんな思いで企画した公演。

大阪は室内楽に対する根強いファン層を持つ場所でもある。テレマンが発足した1963年当時、東京にもいくつかの室内楽団が生まれたが、現在活発な演奏活動を行っているのはテレマンのみ。室

内楽を「文楽」に続く、大阪が育んだ独自の文化だと中野は「私の見た大阪文化」の中でも主張している。また会場には大阪市中央公会堂を選択。「民」の建てた大阪らしい歴史的建築物を舞台とすることで、より強力に国内外に大阪の精神性をアピールできると考えた。

またこの企画の意図を直接、ブランデンブルク州首相ディートマル・ヴォイトケ氏にメッセージとして送った結果、首相から返信をいただくことが出来た。民間による直接的な海外発信の成功例とし

て一石を投じるものになったと言える。当日は大阪総領事館より、フローリアン・イェーガー領事がお越しになり日本語のメッセージをいただいた。またハイデルベルク市長もゲストとしてご出席。以後の旅程の中でのご講演で、この公演が素晴らしかったと各地で伝えてくださった。

### ディートマル・ヴォイトケ博士、ブランデンブルク州首相の日本テレマン協会による大阪での「ブランデンブルク協奏曲」コンサートシリーズ初演への歓迎の言葉

ブランデンブルク州が日本にご挨拶します。

1718/1719年にヨハン・セバスチャンは、ベルリンにおいて音楽を愛するブランデンブルク・シュヴェート辺境伯クリスチャン・ルードピッチと知り合いました。バッハは1721年にこの辺境伯に以前作曲し、「ブランデンブルク協奏曲」として世界に広く知られるようになった6つの協奏曲を献呈しました。協奏曲にこの名前が付けられたのはバッハの死後、長い年月が過ぎ去った後の19世紀末のことでした。バッハの音楽は時とともに忘れ去られていたのです。1850年になって始めて献呈した総譜が発見されました。

ブランデンブルク州は25年前になりますが、1990年の壁崩壊後に新たに創立されました。当時、「新連邦州」がドイツ連邦共和国に加盟しました。現在、

ブランデンブルク州はドイツにある16の連邦州の一つです。中心部にドイツの首都ベルリンが位置するブランデンブルク州は、近代的でダイナミックな経済拠点となりました。数多くの日本企業がこれを認識し、ブランブルク州で事業を展開しています。ブランデンブルク州には数多くの天然資源があり、国内そして国外からの多くの人々を魅了し続けています。多くの学術と芸術機関もドイツの首都ベルリンを取りまくブランデンブルク州の特徴です。そしてスポーツ選手とスポーツを愛する人々にも最適な環境を提供しています。

このように今日のブランデンブルク州には、「ブランデンブルク協奏曲」を世界に知らせることになった非常に大きな「構造上の多様性」があります。私どもブランデンブルクの間は、皆様と同様に、延原武春殿とオーケストラ・メンバー

の方々が奏でるバッハの音楽を愛しております。ブランデンブルクは400年の歴史を顧みます。バッハの「ブランデンブルク協奏曲」がこの歴史の一部であることを疑う余地はありません。

またバッハの「ブランデンブルク協奏曲」が今日、人類の文化遺産の一つであることも明らかです。テレマン協会がこの協奏曲を毎年、大阪で演奏されることを心から嬉しく感じています。そしてヨハン・セバスチャン・バッハの作品が人々に新たなインスピレーションを喚起することを望んでいます。音楽芸術家の皆様に心から感謝いたします。そしてブランデンブルク州から皆様にご挨拶をお送りいたします。

ディートマル・ヴォイトケ博士  
ブランデンブルク州首相



### 3-2 ミラノ万博記念公演シリーズ

2015年に大阪市の姉妹都市ミラノで開催された万博を国内でも応援するべく、全7公演を企画。会場では博覧会のパンフレットやイメージ動画を流すなど、万博の周知に貢献。



#### 【EXPO Concerts in OSAKA】

- |   |   |
|---|---|
| 第1回 5月22日(金) 大阪倶楽部4階ホール<br>日本テレマン協会マンスリーコンサート | 第4回 8月29日(土) みつなかホール<br>三宝鉄道コンサート             |
| 第2回 6月12日(金) 堂島アバンザ<br>アバンザ ランチタイム・コンサート      | 第5回 9月11日(金) 大阪倶楽部4階ホール<br>日本テレマン協会マンスリーコンサート |
| 第3回 8月2日(日) 大阪市立美術館<br>うえまちコンサート              | 第6回 10月16日(金) 堂島アバンザ<br>アバンザ ランチタイム・コンサート     |



### 3-3 フェット・ドウ・ラ・ミュージック啓蒙コンサート

「フェット・ドウ・ラ・ミュージック」とは1982年フランス文化省のモリス・フルーレ音楽舞踊局長が構想を練り、ジャック・ラング文化大臣が創設した発案した音楽イベント。夏至である6月21日に「朝まで音楽を楽しむ!」というコンセプトでプロ・アマ問わずフランス全土で無料コンサートが開催される。現在100か国以上で実施している。

日本でも「音楽の休日」と訳し、無料コンサートを実施しているが、今一つ盛

り上がりにかけている。フランス総領事シャルランリー・ブロー氏はこのイベントを大阪に定着をさせたいと考えておられ、当協会に協力を要請。協会としてはそれをうけ、6月29日に実施。当協会は従来7月にフランス近現代の弦楽作品とシャンソンを公演してきたが、それをこの日に移行。幅広い層にフェット・ドウ・ラ・ミュージックの存在を伝えることが出来た。

### 3-4

#### タイ国王陛下 生誕88周年記念祝賀会

タイ総領事ドゥシット・メーナパン氏からのご依頼でタイ国王陛下生誕88周年記念祝賀会に出演。高曲伸和(バリトン)とテレマン室内オーケストラ首席メンバーによるカルテットの演奏で、両国国歌および国王ご自身が作曲なされた曲を二曲演奏した。

## 4 その他

### 4-1 レイクパピルスの使用結果

2015年度も日本テレマン協会は主催コンサートの大半に레이크パピルスを使用。2015年度に浄化で来た湖水の量は以下のとおりである。

合計で4,492トンの水を浄化したという計算になる。さらに他団体への呼び掛けも進んでおり、2010度より大阪市ユースオーケストラでも레이크パピルスが積極的に使われるようになった。

1：プログラムの使用（一部につき400リットルを浄化）

マンスリーコンサート：11回

定期演奏会：7回

合計：6,430部

浄化量：2,572,000リットル（2,572トン）

2：チラシの使用（一部につき200リットルを浄化）

マンスリーコンサート：9回

合計：9,000部

浄化量：1,800,000リットル（1,800トン）

3：その他印刷物

「2014年度社会的活動報告」冊子の表紙

（一部につき200リットルを浄化）

使用量：600部

浄化量：120,000リットル（120トン）



（参考：레이크パピルスのロゴマーク）

### 4-2 ボルネオの森 保全プロジェクト

2015年度もサラヤ株式会社との協働で定期演奏会のチケット収入の1パーセントをボルネオ・トラスト・ジャパンに寄付。寄付金額は35,000円。たまり175畳分の森を保全することが出来た。



ボルネオ保全トラストジャパンからの感謝状

### 4-3 チャリティー協力

日本テレマン協会はこれまで阪神大震災やニューオリンズのハリケーン、JR福知山線脱線事故メモリアルコンサートのほか様々な災害へのチャリティーコンサート活動を続けてきた。クラシック音楽のコンサートに対する社会の受け入れ方が年々変化しつつある中で、人と人をつなぐ場であるという理念を協会としては今後も大切にしていきたい。そういった意味で「チャリティーコンサート」への参加を積極的にすすめてゆく考えである。

2015年度のチャリティー協力は以下の通りである。

- 1：ボルネオの環境保全活動（4-2 参照）
- 2：マンスリーコンサートにおけるユニセフ募金活動への協力
- 3：JVC国際ボランティアセンターの主催による連続公演

【2015年度のJVC国際協力コンサート】

2015年12月 6日

JVC国際協力コンサート2015 第22回大阪公演

会場：いずみホール

曲目：J.S. バッハ／クリスマス・オラトリオ第1～3部ほか

出演：指揮／マノイ・カンブス

合唱／コードリベット・コール

2015年度版 一般社団法人日本テレマン協会 社会的活動報告

発行 一般社団法人日本テレマン協会

〒530-0002

大阪市北区曽根崎新地2丁目1-17

TEL06-6345-1046

FAX06-6345-1045

tij@cafe-telemann.com

<http://www.cafe-telemann.com/>

